

2017年11月実績概要（メモ）

（2017.12.21）

エチレン製造装置の稼働率が更に上昇、誘導品の生産も本年累計ベースではすべてが前年を上回る。

1. 生産動向

イ) エチレン 561,600トン

前月比 +2.8% (+15,500トン)
前年同月比 +0.7% (+3,700トン)

生産増減に係る諸要因	<前月比>	<前年同月比>
日数増減	▲3.2%	—
定修要因等	+5.4%	—
能力増減	—	—
稼働率変動	+0.6%	+0.7%
生産増減率	+2.8%	+0.7%

稼働プラントの実質稼働率試算：前月97.8%→当月98.3%←前年同月97.7%

定修プラント：前月なし→当月なし←前年同月なし

本年1～11月の累計生産量 5,953.9千トン、前年同期比+4.5%

ロ) 主な石油化学製品

前月比では、主として定修規模差からLD、塩ビモノマー、MMAモノマー、SBR、BR、ベンゼン、トルエンなどの8品目でプラス。PP、PS、SM、塩ビ樹脂、ANなどの9品目は日数減や定修規模差の関係からマイナスとなった。

前年比では、主に稼働率要因からHD、塩ビ樹脂、MMAモノマー、EO、EG、BR、ベンゼンなどの12品目がプラス。PP、PS、ANなどの5品目は定修規模差等からマイナスとなった。

2. 樹脂の生産・出荷状況（LD、HD、PP、PS）

イ) 生産

前月比では、LDは定修系列数の減少から大幅なプラス、HDは稼働率要因から微増となった。PPはほぼ日数減に沿ったマイナス、PSは日数減と定修規模差からマイナスとなった。

前年比では、LDはほぼ前年並み、HDは主に稼働率要因からプラス、PPは稼働率要因、PSは定修規模差からそれぞれでマイナスとなった。

ロ) 国内出荷

前月比では、営業日数ベースでは減少がある中、ユーザー側からの引き合いは強くLD、HDではほとんどの出荷分野で数量が増加した。PPでは射出成形、フィルム分野での出荷が増加しプラス、PSは包装分野等での出荷減少が見られるも輸入品の減少傾向から雑貨・産業資材向けの出荷が伸びた結果、前年並みとなった。

前年比では、LDではフィルム分野、PSではFS分野を中心とした出荷増加からプラスとなった。PPは射出成形分野の出荷減少もあり僅かながらのマイナスとなった。

ハ) 輸出

好調な国内からの引き合いに対応した結果、輸出玉は限られており、前月比では、前月の輸出量が低めであったLD、PSではプラスとなったが、HD、PPはマイナスとなっている。前年比ではLD、HD、PPともにマイナスが続いている。

ニ) 在庫

在庫量は、LD、HDで増加、PP、PSは減少した。在庫率(季節調整済)は前月に対してLD、HD、PP、PSともに若干低下した。在庫水準としてはLD、HD、PSはほぼ適正、PPはややタイト傾向となっている。

	前月対比増減量 (単位:トン)	季節調整済在庫率 (単位:ヶ月)	
		10月末	11月末
LD	+10,700	3.2	3.1
HD	+2,700	2.7	2.6
PP	▲21,600	2.6	2.5
PS	▲5,100	1.5	1.4